

平成20年度研究ステーション研究成果報告書

1. 研究ステーション名 Social Informatics (社会情報学) 研究ステーション

代表者名 太田敏澄

2. 平成20年度の研究の特筆すべき成果

(1) 企業内 SNS プロジェクトの実施

1) 「企業内 SNS」プロジェクトを、横断型基幹科学技術推進協議会における共通プロジェクト A として、平成 19 年度から継続して研究助成を受け、調査研究を実施し、その研究成果につき、学会の大会などで研究発表を行うとともに、論文誌への投稿を行った。

2) 本研究ステーションが共催予定の第 20 回横幹技術フォーラム (2009 年 6 月 3 日開催予定) を企画した。

・テーマは、「SNS が切り拓くバリアフリー・コミュニケーション—企業内 SNS 最先端の活用事例—」である。なお、主催は、(特定非営利活動法人)横断型基幹科学技術研究団体連合、および横断型基幹科学推進協議会である。

・このフォーラムでは、「企業内 SNS」プロジェクトの調査研究の成果を発表する予定であり、企業における SNS 導入事例の4社による報告と、パネルディスカッションを行う予定となっている。

(2) 「Emergency Broadband Access Network using Low Altitude Platform Station for Disaster Relief in Indonesia」プロジェクトの実施

APT/HRD の公募プロジェクトで、2008 年 12 月 3 日に採択されたプロジェクトであり、主としてインドネシアの PT Telekomunikasi Indonesia R&D Center と共同で実施中である。

(3) 第 15 回の社会情報システム学シンポジウムの開催

1) 第 15 回社会情報システム学シンポジウムを、平成 21 年 1 月 23 日に開催し、特別講演として、山本修一郎氏 (株式会社 NTT データ技術開発本部システム科学研究所長) より、「知識コミュニケーションの展望」と題する講演を戴いた。また、公募による一般セッション講演では、34 件の研究発表を行い、参加者は 83 名であった。なお、プログラムは、

<http://www.ohta.is.uec.ac.jp/ISS/iss15-program.pdf>

に示した通りである。

2) 同学術講演論文集は、平成 20 年度に国会図書館より、ISSN: 1882-9473 を取得した。

3. 平成20年度の研究成果の公表実績 (主催した研究会、研究成果の発信状況等)

(1) 「Emergency Broadband Access Network using Low Altitude Platform Station for Disaster Relief in Indonesia」プロジェクトのインドネシアのメンバーが、2009 年 3 月に来日し、3 月 9 日に学長を表敬訪問した。同記事は、本学トップページに、「APT/HRD (アジア・太平洋電気通信共同体 / 人材開発) プロジェクトのインドネシア研究者来学」と題して、

<http://www.ohta.is.uec.ac.jp/news/apt032309.html>

にリンクしてある通りである。

(2) 第 15 回社会情報システム学シンポジウムの開催

- 1) 第 15 回社会情報システム学シンポジウム学術講演論文集 (ISSN:1882-9473) を刊行した。
- 2) 同学術講演論文集に採録されている論文の抄録は、独立行政法人科学技術振興機構のデータベース JDream II の JSTPlus に収録されている。

4. 外部資金の獲得状況

- (1) プロジェクト「企業内 SNS」につき、横断型基幹科学技術推進協議会より共通プロジェクト A として、平成 19 年度から継続して、研究助成を受けた。
- (2) 「Emergency Broadband Access Network using Low Altitude Platform Station for Disaster Relief in Indonesia」プロジェクトにつき、APT/HRD の公募プロジェクトとして、2008 年 12 月 3 日に採択された。

5. 今後の研究発展(外部への発信、外部資金獲得計画を含む)

- (1) 本研究ステーションは、第 20 回横幹技術フォーラム(2009 年 6 月 3 日開催予定)の共催を予定している。
- (2) APT/HRD の公募プロジェクトの平成 20 年度分の継続実施を行う。
- (3) 第 16 回社会情報システム学シンポジウムを平成 22 年 1 月 22 日(予定)に開催し、同学術講演論文集 (ISSN:1882-9473) を刊行する予定である。
- (4) NICT の「平成 21 年度民間基盤技術研究促進制度に基づく研究開発課題の提案公募」に民間企業と共同で応募する予定である。
- (5) APT/HRD での平成 21 年度の新規プロジェクトに応募する予定である。
- (6) その他に、文部科学省競争的資金、JST、共同研究費、および受託研究費等の獲得を検討中である。

6. 代表的なピアレビュー論文発表、学会プレナリ、招待講演発表、特許出願、受賞等

代表的なピアレビュー論文発表

梅原英一, 太田敏澄, 企業におけるリスクコミュニケーションのゲーム理論によるモデル化—ガーデン・エージェントの機能と有効性, 地域学研究, Vol.38, No.4, pp.889-907, 2009.

Agung Budi Sutiono, Andri Qiantori, Hirohiko Suwa, Toshizumi Ohta, Characteristic tetanus infection in disaster-affected areas: case study of the Yogyakarta earthquakes in Indonesia, BMC Research Notes, Vol.2, #34 (7 pages), 2009.

Eiichi Umehara, Toshizumi Ohta, Using Game Theory to Investigate Risk Information Disclosure by Government Agencies and Satisfying the Public; The Role of the Guardian Agent, IEEE TRANSACTIONS ON SMC; PART A, Vol.39, No.2, pp.321-330, 2009.

諏訪博彦, 山本仁志, 岡田勇, 太田敏澄, 社会的ジレンマに基づく環境教育教材が環境配慮行動に与える影響, 環境教育, Vol.18, No.2, pp.15-25, 2008.

丸山健, 梅原英一, 諏訪博彦, 太田敏澄, インターネット株式掲示板の投稿内容と株式市場の関係, 証券アナリストジャーナル, Vol.46, No.11-12, pp.110-127, 2008.

Suwa, Hirohiko, Hitoshi Yamamoto, Isamu Okada, and Toshizumi Ohta, A Path Analysis Model for Development of Environmental Education Program to Promote Environmentally Responsive Behavior, Journal of Socio-Informatics, Vol.1, No.1, pp.161-173, 2008.

梅原英一, 太田敏澄, 情報システムの統治組織体制の有効性比較, 経営情報学会誌, Vol.17, No.2, pp.39-59, 2008.

国際会議プロシーディングスなど

Yuki Ogawa, Hirohiko Suwa, Hitoshi Yamamoto, Isamu Okada, Toshizumi Ohta, Development of Recommender Systems Using User Preference Tendencies: An Algorithm for Diversifying Recommendation, IFIP I3E (Proceedings of the 8th IFIP Conference on e-Business, e-Services, and e-Society (I3E 2008)), Vol.286, pp.61-73, 2008.

招待講演発表

太田敏澄, コミュニティ生成メディア(CCM)の可能性と知識流通, 知識流通ネットワーク研究会, 人工知能学会, 2008.

特許出願

小川祐樹, 諏訪博彦, 太田敏澄, 情報選択支援のための次世代視聴推薦エンジン(仮)(学内コード:08-063).

受賞

小川祐樹, 日本社会情報学会大学院学位論文賞(修士論文), 2008.09

以上